

ご自由にお取りください



2018年夏・53号

信条・世に媚びず・枠にとらわれず
・言いたいことはハッキリ言おう

発行／吉田 進

携帯 090-3168-1063

FAX 072-863-0605

〒110-0015

東京都台東区東上野 3-26-10 FC204号

URL : <http://www.kawaraban.ne.jp/>

E-mail : info@kawaraban.ne.jp



沖縄のシンボル、ツリーハウス・レストラン「がじゅまる」が3年前惜しまれて姿を消した。残念。
一方、基地の街沖縄・辺野古沖に望まぬ空港基地の建設が進む。無念。

CONTENTS

世の中・社会・文明・歴史・家族・自分のことを書いています。

「怖わー」と「ホッ」で知る明暗人生

——武庫川上流のJR福知山廃線コース——…… 2

岩名雅記氏のデモ写真で考えた——

規制線を破った4.14「国会前大集合」……… 3

ただひたすらな想い、無言館と窪島誠一郎さん… 4

人にとっての幸せとは …………… 5

「憲法と改憲を考える」シリーズNo.4

戦争の危機が迫るいまこそ

平和憲法の理念の実現を… 6

金正恩は信用できない！が

信頼しないと核廃棄は進まない？ …………… 7

豪華客船クイーンエリザベス号乗船記 …………… 8

シルクロードの日本人伝説

ジャーナリスト 鳥信彦…10

パナマの魅力 ……………11

失われつつある日本の原風景と

伝統風土の再生の目覚め ……………12

溝口健二——反射する事を求め続けた男 ……………13

恭子の日記⑭

「北風と太陽の役目」 ……………14

出来た ……………15

銀シャリ同盟の誓い ……………15

編集後記 ……………15

憎しみより共感の文化発信を ……………16

(創刊 2001年 / 季刊)

「怖わー」と「ホッ」で知る明暗人生

—— 武庫川上流のJR福知山廃線コース ——

萌ゆる
5月

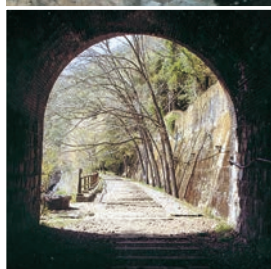
トンネルを抜ければ眩しまぶし 深呼吸



磐石の宴

木々花々が萌え、いのち湧き立つ5月は、1年で一番輝ける季節。その風に誘われ、武庫川上流沿いのJR福知山廃線跡を歩いた。スタート地点、生瀬駅から武田尾駅へのコースは4.7キロで所要時間は約2時間。途中には大小(413m〜86m)6つのトンネルがある。各トンネルを抜けると、武庫川には奇岩巨岩を咬んだ急流がしぶきをあげ、みずみずしい新緑の若葉や、色とりどりの花々が咲く舞台が現れる。「磐石の宴」を開く人たちがもいた。

トンネルは「一寸先はヤミ」どころか、一寸も見えない沈黙の世界。懐中電灯で足元の枕木を照らし、その上をリズムカルに歩くのは無心の技。トンネルを抜ければまたトンネル。各出口の光が見える度に、ホッと生き返る。外の景色を見て深呼吸すると、つい「人間って、トンネル人生や」と思ってしまう。さて、尊敬する石牟礼道子さん(90)が2月10日、他界された。石牟礼さんは、チツソの被害者に



終生寄り添い「水俣の人は、魚にも草、石にも神様が宿っていると思っている」と語り、チツソとの攻防で、「極限の状況を超えて光芒を放つ人間の美しさ」と、企業の論理とやたらに寄生する者との、あざやかな対比をわたしたちは見ることができると述べている(「苦海浄土」)。

さて「全てに神が宿る」なら、見とれる野の草木にも生命の美しさを感じる。また「人間の美しさ」と、企業論理とやたらに寄生する者との対比」というなら今、「森友・加計」をめぐる安倍首相と、彼を取り巻く連中に「権力の論理にしがみつ়く人間の醜さ」を感じてしまう。

さて安倍首相はモリカケ決裁書改ざんをめぐる、各所で「徹底的に調査し、うみを出し切る。信なくば立たず、これは政治の基本だから」と語っているが、多くがその晋三(心臓)発言にびっくり。

「ウミはあんたでしょうが。ウソ八百で、罪を他へ押し付けても、もう国民の信はない。議員に立つな」という人が多い。

ところで、自民与党の支持は急落したが、野党の支持率は増え、つ「支持政党なし」が増えている。つまり、政治不信が増えている現状を野党は直視せねばなるまい。

岩名雅記氏のデモ写真で考えた——

規制線を破った4.14「国会前大集合」

4月14日、安倍政権退陣を訴える国会前デモ。フランス在住の映画監督、岩名雅記氏が帰国中に撮影したものだ。氏はface bookの中で「…規制線は実際はパイプ製の垣根だったが誰からともなくそれを倒し踏み越えていく。ああ、規制されずに“広場”を持てるということはなんと爽やかなことだろう。安倍への怒りもさることながら、2時間も狭い場所に押し込まれていたデモ参加者の爽快感／開放感が皆さんの表情から手に取るように伺える。」と。

選挙に通れば、あとは野となれ山となれのやりたい放題の「先生方」。モリカケで次々と出てくる疑惑の構造、公文書の改ざん、そしてセクハラが公然と罷り通る霞ヶ関……。ずるさと不誠実をあからさまに、嘘で固めた答弁を恥じることもない地に墜ちた政治家や官僚の腐敗ぶり。この腐りきった現実に、主権者たる国民をどこまで愚弄するのかという怒りで機動隊の規制線が破られたのだ。今や窒息寸前の私たちの社会。表現の自由、デモによる

当たり前の「ノン」が、封じられようとしている今。

掲載写真の元である氏の動画も見た。圧巻だった。ラップ調のシュプレヒコールはどんどんボルテージをあげ、規制線を突破しようとする「前へ！ 前へ！」のかけ声がひととき大きくなる。溢れる臨場感。現地参加していない私にも、言葉、文字、写真、音や造形の多様なアピールが、連帯感や高揚感、熱気と共に伝わってくる。政治の欺瞞を撃ち、飼いならされた感性の鎖をふりほどく時の貌。国会前の道路をはさみ分断されていた2つのデモ区域が規制線を突破し一つになった瞬間を焼きつけた写真から、かつて私も経験したデモが生み出す情念のベクトルを忘れていたことに気づかされた。

それで政治が変わるわけでもないが、「どうせ何も変わらない」の諦念こそが、腐った政治を支え続ける。嘆きの未来を招かないために、現状を変えようという精神で沈黙を破ろう。エキセントリックにならず自由にもものが言え、間違ってもそれが挽回できるような社会へ。 (三枝のんこ)



ただひたすらな想い、 無言館と窪島誠一郎さん

長野県佐久市 信州のロザリアン

今も世界のどこかで、紛争で命を奪われ続けている現実の中で、日本は太平洋戦争後の73年間、憲法9条を掲げて人を殺す事も殺される事もなく平和を維持してきました。

1990年に勃発した第一次湾岸戦争に参加したアメリカの女性兵士の最初の犠牲者はアメリカ先住民のホピ族の人だったそうです。ホピとは

これらの言葉では『平和な人々』という意味だそうです：ホピの地には天然ウランが埋蔵されており、政府はホピの人々を安い労働力として採掘作業をさせて被曝させ、そのウランで製造したのが広島と長崎に落とされた原爆だったと、ホピ族のドキュメンタリー映画で知りました。先祖からのホピの教えは、自分たちの聖地の地下にある資源は地球が生きていく為の内臓で

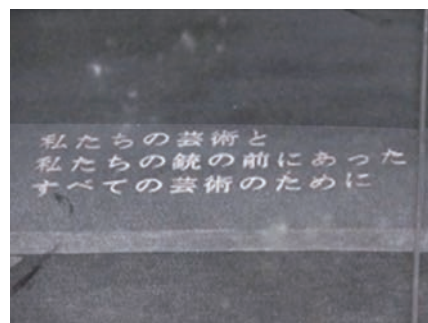
あるから、絶対に掘ってはならぬと言いつづけてきたそうです。

空から見つめる魂

信州の上田に、戦地に赴く直前まで愛する家族や恋人、あるいは生の証として自分と向き合った自画像を残して散って逝った戦没画学生の絵を展示している『無言館』があります。



無言館／8.15鎮魂の日の窪島誠一郎さん



無言館の碑（筆者撮影）

館長の窪島誠一郎さんはお若い時に絵の道に進みたかったそうですが、実父である作家の水上勉さんの血を引き継いで、言葉の世界で活躍なさっていらつしやいます。だからこそ、画学生の方々の想いをしっかりと受け止められ、絵での遺言状を展示する場をと、自然が豊かで街が一望出来る小高い山に『無言館』を建てて、絵を守り続けられています。73年も経過すれば、絵の作者のご両親ももう存在せず、兄弟姉妹もあと数年もすれば、彼らと再会できる天国に召されて、繋がっていた糸が弱くなり、途切れてしまいます。

『無言館』の碑に刻まれた窪島さんの言葉「口をつく

め、眸をあげよ、見えぬものを見、きこえぬ声をきくために」：

戦争時代に絵の大家であった宮本三郎や藤田嗣治の戦意高揚の戦争画は、日本軍部のプロパガンダとして、利用された絵です。

でも、『無言館』の絵は自分の生と死をみつめて描いたものですから、一番何が大切



檻の俳句館 2018/2/25 (筆者撮影)

かを教えてくれます。この美術館は、その一点で深呼吸をしているのです。

北朝鮮の脅威だと国民を不安にし、戦争による経済活性化をもくろむ安倍政権のこの危険な空気感の時代だからこそ、今年の2月25日にその地に新たに俳句という言葉の世界で、弾圧や投獄された俳人

たちを忘れないと、2月に98歳で天寿を全うされた現代俳句の金子兜太さんの揮毫による石碑『俳句弾圧不忘の碑』が建立されて、その傍に『檻の俳句館』が開設されました。

この2つの美術館を将来も継続する決断として、39年前に窪島さん35歳でオープンした村山槐多の代表作がある『信濃デッサン館』は、今年の3月15日をもって断腸の思いで閉館なさいました。

純粋な想いで表現されている絵や俳句作品の前で目を閉じて、情景を想像し、大きく呼吸してみたら、私なりの成長過程で播かれてきた種子が発芽し始めました。その発芽した想いをどう育てて行動するのか楽しみたいです。

そう行動しないと、日本をふくめた世界の政治家たちの傲慢さに幻滅して、政治に無関心になれば、気が付いたらとんでもない事になっているかもしれないからです

政治とは、その国に属する民衆の幸せや生活の不安が少なくなるようなシステムが、本来の姿だと思うからです。

人にとっての幸せとは

千葉県 大山 桜



私は最近、新卒から働いてみて、幸せが何なのかを考えるようになりました。国別に言うと日本の幸福度ランキングは世界155カ国中53位で、経済大国の中では少し低めともいえます。友人にいろいろな職業が多い中（教師、小規模な会社、大規模

な会社、起業したり…）、何かが個々人にとっての幸せなのかを悩むようになりました。若者なりの悩み、とそこに対する解決方法を考えてみました。そもそも幸せや幸福とはかなり抽象的な概念であり、定量的な物ではありません。それが故に、人は幸せを履き違えやすいのではないのでしょうか。まず一般的な幸せについて定義として、「幸せな家庭を築き、裕福な生活を送り、仕事でも一目おかれる立場になり、多くの人から感謝され、好きな時間に好きなことができる」とでもしましょう。これも一つ一つの定義は非常に曖昧で、ぼんやりとしてしまいます。

この定義の中の幸せということの問題点が3つあります。一つ目は、幸せに終わりが無いということです。例えば、お金の話になると、大学生の時はアルバイトのお金で満足出来ていたことが、社会人になりそれ以上のお金を得ているのに対して、人は満足することが出来ません。シヨーパーンハウアーは、「富は海の水に似ている。飲めば飲むほど、のどが渇く」とも

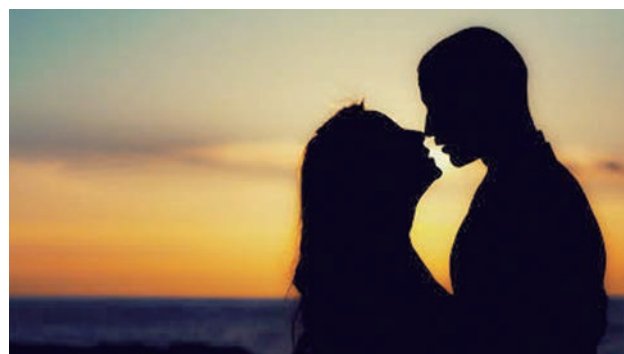
言っているように、幸せとは得られれば得られるほど、不安が倍増するという皮肉なこともあります。

2つ目は、幸せが持続的なものかどうかということですね。お金、地位、名声そのどれもが、手に入れたときは幸福になるが、時と共になくなっていくに連れて、不安が変わっていきます。1つの例として、恋愛で好きな子と付き合えた時、当初は幸せなことだと思いかもしれませんが、付き合い合っていくにつれ、相手に対しての不満、不安が増えて、どんどんうまくいかなくなる場合があります。幸せが大きいほど無くしたときの不安が取り巻くようになります。

3つ目は、その幸せが、自分がいなくなる前、すべてが無くなってもなお、色あせないものなのかということですね。本当の幸せとは、一生かけてもなくならないものだと考えられます。そのために、自分が死んでもなお崩れない有限なものこそが真の幸せなのではないでしょうか。

この3つの問題点を踏まえ

て本当の幸せについて考えてみると、答えは簡単に出てくるかもしれません。本当の幸せは目で見えず、表現することがとても難しいものだと思います。今日手に入れて、明日なくなるような儂いものではなく、持続的に自分の中



で続いていく幸福感こそが幸せなのではないでしょうか。好きな人という間に感じる一瞬や、おいしい物を食べている一瞬に感じる満ち足りる感情こそ、本当の幸せなのではないでしょうか。その幸せを見失わないような生き方をしたいものです。

憲法と改憲を考える シリーズNo.4

戦争の危機が迫るいまこそ 平和憲法の理念の実現を

東京都足立区 竹花 真魚

憲法改正と防衛大綱の見直しは
東アジアに何をもちたらすか？

日本では、今日、中国脅威論が強調され、さらには、朝鮮の核兵器開発・弾道ミサイル開発の脅威が声高に叫ばれています。

こうした動きに呼应して、安倍政権は、今年中に、憲法第9条の改正発議を目指す一方で、「防衛計画の大綱」「中期防衛力整備計画」(中期防)を見直す方針です。

長距離巡航ミサイルの導入、ヘリコプター搭載型護衛艦「いづも」の空母改修が見込まれています。歴代自民党政権でも日本の安全保障の観点からなされてきた、専守防衛の理念が、法形式的にも、現場配置される武器整備の面でも完全に覆されようとしています。

日本とアジア諸国とのあい



6万人がプラカードアピール (5.3憲法集会)

だには、いまなお深刻な歴史問題が存在しています。そのためあって、東アジア地域には、欧州、中南米、東南アジアのような地域的安全保障のしくみがいまなお構築できていません。そのなかで、米朝間での核兵器開発をめぐるパワー・ゲームが展開されています。東アジア諸国の相互間で、相手国の安全保障政策に対する不信感が強まっています。

日本の改憲と防衛大綱の見

直しは、朝鮮半島情勢のさらなる緊張をもたらすだけでなく、中国・韓国をはじめとする周辺のアジア諸国の警戒感をも高めることは必至です。かえって、安全保障のジレンマに陥り、軍拡競争のスパイラルをもたらす危険性が高くなります。

東アジアにも 核兵器禁止の大きな流れを

軍事的緊張が強まる朝鮮半島情勢ですが、これまで何度か関係改善の好機がありました。イラク・リビアをはじめ、他国への米国の度重なる軍事攻撃によって、朝鮮政府は自国への攻撃の疑念を強め、対話の機会が失われてきました。

そのため、朝鮮の核兵器開発も、初期開発段階から、保有・実戦配備準備段階に達してしまい、外交的解決がより難しくなっています。朝鮮政府が対米講和の締結を外交目標としていることに変わりないですが、金正恩政権が国内的にまだ安定していないこともあって、硬直した対米対抗姿勢の転換が困難となつて

います。

日本国内では、朝鮮政府への制裁強化として石油の全面禁輸を求める強硬論が主張されています。石油の全面禁輸が何をもちたらすのかは、アジア太平洋戦争の歴史をみれば明らかです。こうした無謀な主張は、戦争の再開、膨大な犠牲者を覚悟しての発言なのだろうか、驚きを隠せません。

私たちは、「いかなる国の核実験・核兵器にも反対する」と主張して原水爆禁止に取り組んできました。ですから、核兵器の非人道性を省みない朝鮮政府の政策には絶対反対です。

**3千万人
署名を!**

改憲反対の3000万人署名を呼びかけるポスター

昨年7月、核兵器禁止条約が国連総会で採択されました。残念ながら日本政府は反対しましたが、多くの国の批准により、ことし発効予定です。こうした核兵器禁止の世界的な大きな流れを背景にして、いまこそ東アジア非核平和地域の実現を目指していかなくてはなりません。何よりもまず大切なのは、関係国の信頼醸成の措置を積み重ねていくことです。

米日政府は軍事的・経済的圧力を強める戦争瀬戸際の対応をおこなっています。こうした対応は、相互の不信感から軍事衝突を招きかねません。そうではなく、2002年の日朝平壤宣言のときのように、外交的解決の道があるはずで、戦争被爆国として、戦争放棄を謳う平和憲法を持つ国として、韓国・文在寅政権と連携して、外交チャンネルを駆使して、6ヶ国協議の再開のための努力を惜しむべきではありません。こうした状況のなかでこそ、平和憲法の前文・第九条の条文の持つ重さを再認識して、憲法改正の議論に向き合いたいと思います。(2018年1月11日誌)

金正恩氏は信用できない！が信頼しないと核廃棄は進まない？

東京都江東区 三田 栄考

韓国の文在寅大統領と北朝鮮の金正恩委員長との板門店でのテレビ中継を見て、感動を覚え、南北の国民は涙する者も多かったろう。青い橋のベンチで話しこむ真剣な姿は印象的だった。ああそうか同じ朝鮮民族だから2人きりで腹を割って話せるのだと改めて感じた。

核に関する具体的な言及がないのが物足りないとの意見もあるが、それはこちらの立場からであって、金委員長にすればトランプ氏との交渉のためにとっておくのは当然だ。それに米大統領へ自国の選挙民向けに成果を用意しておかないと米朝会談の進展が図れないからだ。首脳会談は事前の交渉で案文の殆どが決まっておりますそれを発表するセレモニーとみるべきだ。首脳外交は選挙主義国の政権党にとっては野党にはできない絶好のプロパガンダの機会だから相手の首脳よりも自国民の反応の方が気になる。



握手は18回したという。初対面にしては固くなくもう知り合いの雰囲気のようなので、そして本当に両者は嬉しそうだった。

北朝鮮が外交上手なのではなく、独裁国は気配りしなればいけない勢力がいなければ自由勝手な手を打てるから外交交渉ごとは独裁国が有利なのだ。担当者も長年続ければ遥かに勝れている。事前交渉は漏れ伝わることは少ないが、首脳同士の感情の行き違いで決裂したら大変なので、いや、数時間で充分交渉できるわけがないし、ましてや南北会談は失敗は許されなから随分と事前の摺り合わせが行われていたようだ。南北のホットライン開設もその一環だし、4月中旬には5月に訪

安倍政権は戦争誘導外交をやめ、平和外交を

北の核廃棄は友好的雰囲気の下にじっくり長い時間を掛けて、北が納得できる環境下で廃棄させることだ。メディアはニュース性がないと面白くないから何ごともおーバーに騒ぐ。地味な交渉とは無視するから余計に目立たない。外交ごとは地味な仕事の集積であることを我々も理解しなければいけない。安倍政権の如く国難と危機をあおられると乗せられてしまう。かくて軍事優先路線を突っ走った日本政府。北からの首脳会談提案を米国が受け入れるまで《出口のない圧力》ばかり叫んだ安倍首相。首脳会談が決まるとあわてて米韓に「拉致も言つてよ」と頼み込まざるを得ない無様な始末。6ヶ国でなく日本を除く4ヶ国で協議しようと同声明にうたわれてしまった。

安倍首相の強調してきた圧力だけではダメで、話合いの場がなければ拉致の交渉もできないのはわかり切ったことだ。幸い圧力ばかり熱心な日本政府に対し金委員長は《い

つでも交渉の用意》はあるそうだから、植民地時代のつぐないを表明しバスに乗り遅れないように。平和外交こそ大事だと認識すべきだ。米朝が国交を結んでおいてけぼりになつたらみつともないので保守派までも「日朝国交」とか言い出した。

経済的圧力は大きいに続けるべし。しかし圧力は交渉の場に引き出すためであつて手段であつて目的ではない。韓国の世論調査では、16%しか金正恩を信頼できないが、会議後に一挙に70%近くになった。そんな甘いものではない。最後の最後まで独裁者は信用できない。注意深い対応が必要だ。最後に言っておきたい、野党こそ安倍政権の「戦争誘発外交」に反対し「日朝国交回復」外交を展開すべきではなかつたか。(4月29日記)



北国内でもこんなに警備をしているのか。西側の暗殺もありえたからだろうか。そんな警備が不必要になるように内政にも意を注いでほしい。

金持ちがするクルージングをしてみよう、世界一の格を誇るクイーンエリザベスに大阪からアモイまで乗ってみた。3月22日大阪港を夜遅く出発、翌々日早朝に長崎、その夜、上海に向けて出港した。翌日は終日洋上、翌朝早くに上海に寄港して上海観光。翌日は終日航海で、早朝アモイ入港。船内六泊だ。世界一周も兼ねて各地を回り、部分乗船もできる。軍艦のような勇ましさ、商船のようなスマートさはないが、全長294m、最大幅32・3m、9万ト、乗客2081名定員、2010年竣工の巨船である。ホテル仕様で、長いタラップを登り船内に入るとそこはメインロビー。エレベーターで一気にデッキ#8の8014室に入る。船の客室らしくコンパクトだが、バルコニーも付いている。シャワー室は狭いが窮屈さは感じなかった。

御上りさんよろしく船内探訪

天保山棧橋(大阪港)に接岸するエリザベス号に乗込むには、名簿やパスポートの確認、イミグレーション、手荷

豪華客船クイーンエリザベス号乗船記

大阪中央区 馬場 正雄

物検査、船内支払いカードなど煩雑な手続きが必要。エリザベスビルのデッキは12階まである。左右の舷に長い廊下があり、4基のEVホールがある。小さいながらもジャグジーなど何ヶ所も。屋外プールは少し寒い。温湯でカパー。1、2、3階は娯楽施設が集中する。領海内はだめだが、日本を離れるとおおっぴらにできるカジノ：人が不幸

になるのが前提だから、公明党まで賛成するのが不思議だ。図書館、ブランドショップ、美容院、ダイニングルーム、写真館、画廊、卓球室にゲートボール室。各所に展望室やカフェなどがあって地下はメデイカルケア室。甲板たるデッキには数十のビーチベッドが幅を利かせていた。スクリーナーが2つ付いた救命ボ



船内とは思えない広いレストラン、左奥に二階のレストランに続く階段がある。勿論、ウエイターはさまざまな国の人。

3フロア吹き抜けの中央広場、エリザベスの壁画をバックに記念写真とる人も

霧囲気も最高だ。ロイヤルコートシアターは3フロアぶち抜きで、3階席にはバルコニー席まである。その一室はエリザベス女王が#15席に就かれたのでロープが張られていた。座席は800席、日本橋三越劇場を上回る。船内にいることを忘れてしまう落ち着いた雰囲気、毎日違ったショーが見られる。踊り子さんは出番のない日は何の仕



大阪天保山棧橋からいよいよ出港、賑やかな音が始まる。地元の高校生のバンドの演奏だ。さすがはエリザベス、1年1度の寄航だから商店街も歓迎一色。ボンヤリと青年の声を受けて錨を上げた。

トが10艘ほど甲板の上に設置され、ゲートボールやバドミントンコートも。レストランは圧巻だ。入口に向かう廊下は船内を感じさせないゆとりがある。乗客は航行中も殆ど揺れることもなく、船内生活を思い思いに楽しんでいた。レストランも街とは比較にならないほど、バイキングの種類が豊富、海を眺めながら

千差万別の乗客で、上品で豊かそうな人も多い。沖繩に3ヶ月、京都に1月いたとかいう御仁もいた。50代、60代で余暇を楽しんでいる旅行者も多い。車椅子も5人、杖に頼る人も20人はいた。目の見えない人も見かけた。余生をゆつくり楽しんでいる西洋

乗客や乗船員はどんな人

(もっと多く思えたが) 事をしていいるのかな? いやいや、他の仕事なんかするわけない等と雑念が入る。連れ合いは英語ばかりで分からないから面白いと不服そう。ことばが分からなくても身ぶりなどで感じさせる催し物、出し物が良かったのに。船長曰く、2000名のお客様で約350名が日本客とか。(もっと多く思えたが)



これぞクイーンエリザベス号だ

の人も多かったな。日本人は悠々自適で余裕綽々の人もいれば、楽しみにしていたクルージングは初めてだと嬉しそうに語る人、他方、小金を貯めてやっとエリザベス号に乗れたような団体のグループもかなりいた。小柄な日本人はどうしても貧相に見えるのは致し方ない。

エリザベス1世の頃は英国貴族風の人ばかりだったのだろうか。クルージングを楽しめる人が往時より増えたのは歓迎すべきことだろう。クルーたる乗組員は人種が多彩だった。ベッドメーカーキングのボーイはフィリピン人、ウエイトレスはラトビア人。写真屋はマレーシア人、バイキング会場にはタイ人やベトナム人、カジノの賽を振るのはバンングラデシユ人、受付やショーをやるのは西洋人。まあ、人種配分は当然の帰結かもしれないが。クルーズ各社も競争だから人件費も主要なポイントだろう。

さすがはエリザベスの晩餐会

航海中に時々フォーマルな日が設定される。その日は18時以降はラフな衣服はやめ



最上階の甲板にはプールを初めテニスコートや卓球施設ラウンジなど西洋人はバカンスを楽しむのが上手で、寒いのにプールに入ったり水着で日光浴とか

て、男性はネクタイとスーツに、女性はドレス姿でお越しくださいというわけだ。淑女方にとってはこれがまた大事ならしい。普段は身に着けるのも躊躇するようなジュエリーを身に纏い、写真に納まるのも大きな目的だ。ベストポジションは中央部の吹き抜け3階で階段を利用したり、或いはエリザベス号の船影画をバックに納まるわけだ。撮影時間帯には10組前後が並ぶ。小柄な日本女性も和服を装えばゴージャスである。キャプテン主催の晩餐会になると私は隅っこで小さくなる。社交ダンスは優劣の差が顕著だ。この踊りは一見、女性が自由闊達に動くように見えるが、その実、男が主導権を持って華やかなドレスの華を開かせそうさだ。軽やかにステップ

と大変だ。入り口で船長と記念写真をと長蛇の列で、待つこと20分。ご婦人方は着こしめした自分に浸るのがクルージングの目的でもあるようだ。その母から義母から、あるいは自ら手に入れたジュエリーで思う存分着飾ってカメラに収まる。もちろん、船員が担ぐシャンパン、ワイン等は飲み放題だから私は心おきなくいただいた。船長が各部



を踏む者、ぎこちない者、ゼンマイ式の踊りと、私だっておおよそ分かるぜよ。毎日色んな名目でダンス場は踊り手に占有されていたが、船上ダンスが目的の客も多いからな。キャプテン(700名の船員を率いるのは女性船長だった)主催のパーティーは、もっ

クルージング30回のつわものも

署の部下を紹介し終わったら、あっさりお開きになって舞踏会場に衣替えだ。

それとなく聞いてみたら、数回目が一番多く、10回、20回いや30回の猛者までいたのだから驚いた。いったい金はどこから出てくるのか私には判らない。こんなお金持ちと話していると、金はどこからでも湧いて来るように思える。私が気にしていた「上級クラス以外は立入り禁止」ゾーンがあるにはあったが、不愉快なほど多くはなかった。窓のない客室はその分広くてお得な部屋だとも聞いた。それに参加回数を重ねると船会社も客室係も大いにもてなしてくれて、待遇がVIPになって、食べたいものを言えば翌日には何でも食膳に上らせてくれると豪語する客もいた。

完全現役は少ないが、半分現役の人、全くりタイヤした人に分かれていた。足腰が立たないようになってしまったのはライフ・クオリティが落ちるから、今のうちに体験を重



客室の窓の向こうがベランダそして海。テレビはNHKの海外向け放送が入る。海側バルコニー付き客室

ねたいとの意味がある。中には持っている金を使いこなしてしまわないといけないという程度にしか考えてない人にもお目にかかった。「どこ料理が良い」「どここのシアターが面白かった」「あの船のダンス曲が踊りやすい」「どこの観光が充実していた」の話ばかりの世捨て人かと思われる輩で、ある意味勿体ない感じもした。遣唐使が、鑑真和上が、倭寇が命がけて東シナ海を渡ったのに較べると余りにも勿体ない気がして、私はフロントに交渉してアモイで降ろしてもらおうよう交渉したが、香港までの契約だから途中下船はイミグレーションの準備が大変だと言われたが、そこはそれ、持ち前の強引さであればよ！をしてきた。

エリザベスの乗船費用 (私のケース)

2018年3月22日大阪港乗船夕食から31日香港朝食後下船まで全食事付き1名当り			
スタンダード内側室	214,000円	オーシャンビュー室	286,000円
プリンセススイート室	589,000円	ペントハウス室	766,000円
		バルコニー付室	341,000円
		租税、手数料、港湾費用等	19,000円

シルクロードの日本人伝説

中央アジア、シルクロード……といった言葉に親しみを感じたり、心ひかれる日本人は案外多いのではないだろうか。現代では遠く離れて、たとえば日本からウズベキスタンへは春から秋に週1便の直行便しかない。それでも中央アジアの国々にロマンを感じるのは、日本との間に長い文化交流の歴史があったからだ。中央アジアの代表的な国々はカザフスタン、トルクメニスタン、ウズベキスタン、タジキスタン、キルギス(スタン)で、テレビのコメンテーターを務める加藤タキさんの名で覚えておくと思いい出しやすい。

中央アジアと日本は、実は紀元前から交流があった。ローマと長安を結ぶシルクロードは大航海時代(15世紀以降)までは欧州の文物と中国の絹を交易する世界の大動脈だった。ウズベキスタンのヒヴァ、ブハラ、サマルカンド、タシケントといったオアシス都市はシルクロードの中

心にある拠点の交易都市だったのだ。それらの都市に行くに古くからの世界遺産が数多くあり、心を湧き立たせてくれる。そのシルクロードを通じて東端の日本にも仏教、西洋や中央アジア、中国の文物が届き、日本文化も彼の地に運ばれた。ただ残念なことに大航海時代、さらに空の時代がやってくるとシルクロード



寫 信彦
ジャーナリスト しまのぶひこ

は利用されなくなり忘れ去られていった。しかし心の中にはシルクロード文化は残っていたのだ。

日本とシルクロードを再び結びつけたのは、第二次大戦後だった。敗戦により満州で捕虜になった日本兵のうち数万人がソ連によって中央アジア各地へ労働力として強制移送されたのだ。多くは道路、鉄道、鉱山労働者などとして



抑留元日本兵も協力して建設したナボイ劇場、左手奥に壁に経緯が説明書きされている。1990年のタシケント地震にも被害は少なかった。

働かされた。ウズベキスタンのタシケントへ移送された457人の日本人工兵の捕虜はソ連側からオペラハウスの建設を命令される。工兵としての知識、腕を見込まれたのである。

隊長の永田行夫氏(当時大尉、24歳)は「仕事をさぼることもできる。しかしこのオペラハウスが数十年も残るとしたら日本人として恥になるようなものは残せない。日本人の誇りにかけて立派な劇場を作ろう」と呼びかけ、現地のウズベク人と協力してビザンチン風の三階建ての壮麗なオペラハウスを建設する。これが後にソ連の三大オペラハウスの一つとして数えられる「ナボイ劇場」だった。

このナボイ劇場は1966年にタシケント大地震に見舞われる。市内のほとんどの建物は崩壊し、国連から救援隊もくるほどの大地震だったが、ナボイ劇場だけはピクともせず凜として建ち続ける。以来、日本人の仕事ぶりの丁寧さ、堅実さ、真面目さなどが改めてウズベク人に思い起こされ、後にナボイ劇場と日本人の仕事ぶりが中央アジア全体に広まり、「日本人伝説」となっていったのである。

中央アジア諸国は、1991年にソ連から独立し国造り

に励むが、多くの国は日本が戦後いち早く立ち直ったことやナボイ劇場建設の数々の語り継がれてきた秘話を思い起こし、日本に範をとった国づくりを行う。どの国も親日的で日本に敬意を表してくれている。私は約20年前にこのナボイ劇場建設の物語をドキュメンタリーにし、TBSで放送した。それが縁で1987年にNPO法人日本ウズベキスタン協会を設立し、今年で丸20年となる。ウズベキスタンを中心に中央アジアからの留学生も多く、今年の協会の新年会には中央アジアの留学生約40人を含め190人の人たちが集まり、盛会のパティーとなった。

ナボイ劇場に見学に行くのと、外壁には「この建物は日本人が建立した」という銘板があり、それをみて当時の苦労をしますので涙を流す日本人旅行者が多い。(この実話については拙著の「日本兵捕虜はシルクロードにオペラハウスを建てた(角川書店)」のノンフィクションを読んでいただくとありがたい。)

(日本・ウズベキスタン協会 会長)

仕事の関係で14年近くを海外で勤務した。ドイツ、米、国、フィリピン、パナマの4か国、5都市であった。そのうち最も滞在期間が短かったのはパナマである。しかしいま、最も関わりがあるのがパナマである。

12年前、元パナマ大使の呼びかけで日本・パナマ友好協会の設立をお手伝いした。いま会員数は100名を超える。最近では在京パナマ大使館と共催で毎年イベントを開催、参加者にパナマの歴史・文化、音楽、パナマ料理などを楽しんでもらう。年2回



日本・パナマ友好協会のイベント

パナマの魅力

狩谷 求

(日本・パナマ友好協会理事)



外務省HPより

発行の会報の編集作業もある。ほかに会員親睦のハイキングなど、会の運営に幹事の一人として結構忙しい。

さてパナマ共和国、多くの日本人にとってパナマのイメージは、パナマ帽、パナマ運河、パナマ船籍、そして最

近はパナマ文書であろうか。折角寄稿の機会をいただいたので、日本にはあまりなじみのないパナマ共和国の魅力についてお話しさせていただきたい。

掲載した地図にあるとおり、パナマは南北アメリカ大陸のつなぎ目に、東西に細長い国土を持ち、パナマシティの西端には南北にパナマ運河が通っている。国土面積はほぼ北海道と同じ、公用語はスペイン語、ビジネスでは英語が通じる。

小国であるが実に多様性に富んでいる。人口は約400万人。混血(メスチーソ)70%、アフリカ系14%、白人10%、先住民6%と多様な上、首都パナマシティには世界各地からビジネスマンが集まり多彩な文化に触れあうことができる。

首都パナマシティは来年、設立500周年を迎える。コロンブスらのヨーロッパ人がパナマの大西洋岸に出没するようになったのは16世紀の初めだ。スペイン人バルボアはヨーロッパ人としてはじめて

パナマ地峡を縦断、太平洋岸に到達した。1519年、到達点に都市が築かれ、スペインの太平洋岸南米への進出拠点となった。パナマシティは、ピサロのインカ帝国征服の中継拠点としても使われた。

パナマに競争力のある製造業はない。強いのは地政学上の優位性をいかした物流、サービス業、金融業である。



パナマシティの夜景(写真提供在京パナマ大使館)

パナマ運河は一昨年拡張工事を終え、ポスト・パナマックス級の大型船の通航が可能となった。運河を挟んで、香港に次ぐ世界第二の取扱量を誇るフリーゾーンや経済特区が

ある。国際金融センターには90を超える内外の銀行が集積する。

オフショア取引で得た収入は課税対象とならない優遇税制等があるためパナマに地域本部を置く多国籍企業も多い。また、南北両大陸をルートとする多品種の動植物が生息し、エコツーリズムを中心に観光にも力を入れている。

パナマ駐在当時、海岸沿いのマンションからはパナマ運河通航待ちの船舶の列が見えた。ベランダには時々大きな羽のペリカンがやってきた。週末のゴルフ場ではイグアナ、なまけもの、ワニに出会う。都市生活は自然と隣り合わせだ。

朝のオフィスでは仲間同士がハグをし合い、始業時間になっても立ち話が続く。お互いに実に楽しそうに喋っている。しかし一旦席に着くと集中力はなかなかのものだった。町のなかには陽気なラテンリズムの音楽に溢れる。人間関係が濃密で人生を楽しむ術に長けているように感じた。そんなパナマに魅かれ、パナマとの関わりが続いている。



失われつつある日本の原風景と 伝統風土の再生の目覚め

新潟三条市 山井 秀榮

「真逆の言葉」で国民を欺く アベコベ農政

ただでさえ米消費が減って、また産地間競争が激化しているなかで「減反廃止・補助金の削減」さらに需給緩和への誘導をしたことは米価の更なる低下を招き、日本農業を守るにはアベコベ農政ではないか。また農業所得が倍増しているとの首相の説明に疑問符が付く？ それは農業所得の小さい農家の離農が激増している現状との整合性において理解できない。従って、

日本農業の位置がさらに低下している。

自立農家だけが生き残る 大競争時代の幕開け

2018年100ヘクタール規模で経営するコメ生産の補助金削減・減反拡大影響などで750万円の減収となったと「月刊ダイヤモンド」誌で「2018 JAを襲う減反ショック」と掲載された。実態は100ヘクタールの大規模化すると労働費150万円/月年間1800万円/平均給与420万円=4.3人分となり経営は厳しいのが現実です(全農資料より)

見かけ上の所得倍増で現実には農村の貧困化が進んでいる。就農人口260万人のうち、4分の3(60歳以上)の営農を諦めさせ辞めさせる意図が働いているとしか考えられない。成長産業化は農業界ではなく産業界の成長であり農業は草刈り場となつていく。経済成長率鈍化のもとで資本収益を優先すれば、国民・労働者にしわ寄せ当然(ピケティの「論」)グローバル資本主義のなかでは一方多国籍大手企業の所得増大

全農の株式会社化は農村の 地域社会の循環を阻止する

これは専制政治?に向かっているアベコベ農政は容認できない。政府の意図する目的はグローバル市場における競争に参加するためのものです。(2014年5月規制改革会議「農業改革に関する意見」による)

万一株式会社になった場合、①価格交渉力の低下↓肥料・農薬など資材価格に影響②ブランド・価格形成が困難↓農産物の販売価格に影響ほか。

安倍政権はこれまでJA全農の株式会社化をちらつかせながら抜本改革の圧力を強めています。その攻防は大詰めに出来ない状況にある。

株式会社になった場合の利益配分は株主に当てられ、農協の場合は組合員に還元されます。もし、株式会社になれば利益は株主のものであり損得勘定で経営されます。中山間地など経営規模に合わないところは農家の廃業の道しかない。事実として経済のグローバル化の中でいくつかの国の農業協同組合連合会は株式会社化した。最終的には穀物メジャーに買収されたりしている。

NHK放映に見る 「新日本風土記」は 次世代に語り継ぐ伝統社会

農家の私が「この厳しい農村社会でなぜ離農しないのかは生まれ育った土地、先祖代々、永遠と築いた家屋敷・田畑を捨てがたい、また地域との地縁・血縁(身内・親族縁者)とのつながりを大切にしたいためである」と自問自答しています。

その一例「新潟日報」の記事です。

「農村は、はたらく・暮らす・はぐくむ(子育て)が地続きだから心地よいと思うことがある。そして、変化と時代のスピードが速くなり「わけのわからない」ことが増える世界より、雪の晴れ間のすっと背中をあたためてくれる柔らかな冬の日差しのおかげで、芋や米など実在する確かなものを手にし、こどもや作物の成長する時間の流れのまま、等身大な暮らしをするほうが心地いい。」

(「生き方は農村にあった」未来につなぐ、里山くらし 佐藤加奈子記)



溝口健二についての評論集

溝口健二

—反射する事を 求め続けた男—

市川 隼(鎌倉市在住)



溝口健二57歳
(依田義賢著「溝口健二の人と芸術」所収)

溝口健二は、1898年5月に東京の湯島に生まれ、1956年8月に京都の上京区の病院で、白血病の為、満58歳で亡くなった。牧野省三(51歳)、川島雄三(45歳)が、溝口より若く死亡しているが、他の名立たる監督と比較して、60歳未満での死亡は早すぎた死亡だった。溝口が育った浅草玉姫町に近い、白髭橋を越えた墨田川の向こう岸にあった、日活向島撮影所に入所したのが22歳の1920年であり、関東大震災で京都に移り、亡くなった時には大映の重役監督を務めていたが、36年間の映画人生だった。日本で産声を上げた映画産業が羽搏く時期に入所し、2年後には監督に昇進し、約90本の作品を手掛け、文字通り日本の映画産業の先駆者だったが、日本の映画監督を10年単位で眺めると、溝口と同じ1900年以前の誕生は、衣笠貞之助、内田吐夢であり、1900年以降は、伊丹万作、山本嘉次郎、小津安二郎、成瀬巳喜男、1910年以降は、黒澤明、山本薩夫、新藤兼人、市川崑、小林正樹、1920年以

降は、鈴木清順、今村昌平、羽仁進と続き、山田洋次や大島渚は1930年以降の生まれで、溝口は黒澤より10年以上も先輩であり、山田や大島とは、30年の隔たりがあった。1941年12年に上映された『元禄忠臣蔵(前・後編)』に美術監督として参加した新藤兼人は、『ある映画監督―溝口健二と日本映画―』を書き、同名のドキュメンタリー映画を作成しているが、関係者39名にインタビューし、日常的には温厚な溝口が、撮影に入り込んだ時に変貌する姿を紹介し、戯曲家にも、役者にも、小道具・大道具の担当者にも、遠慮会釈無く、「反射して下さい」と厳しく注文する様を描いている。新藤は、溝口の作品には、出来不出来が鮮明で、全ての作品が、成功したとは言えないと記しているが、戦前、戦中、戦後を、映画世界の中で走り抜けて来た溝口は、興行の成功にも腐心し、国策映画にも手を染めざるを得なかった。長い映画創りでの蓄積が、上記の忠臣蔵で、実際の松之大廊下を再現

するような「溝口リアリズム」を造り上げ、ズームアップを用いずロングショットを使用する、ワンシーン・ワンカットの長回しの独特の映像美が生み出された。日本の映画監督の中でも、先駆者の存在である溝口を、高く評価する海外の映画監督や評論家が多い。米国のマーティン・スコセッシは、『雨月物語』の湖上を往く墨絵の世界を、彼の最新作の『沈黙』に再現し、ヌーベルヴァーグで一世を風靡した、仏国のジャン・リュック・ゴダールは溝口に傾倒し、影響を与えた映画監督3名を上げるとの質問に、『Mizoguchi』と答え、1966年に来日した際、態々、溝口の墓参を果たした。10年後輩の黒澤が、『羅生門』で、ヴェネチア国際映画金獅子賞を受賞したが1951年だったが、溝口も翌年から1954年に掛けて、『西鶴一代女』、『雨月物語』、『山椒太夫』が国際監督賞や銀獅子賞を受賞し、『近松物語』も1955年にはカンヌ映画祭に出品され、溝口の評価も高まり、黒澤、小津

と共に、その後の内外の映画監督に、影響を与え続けた。評価された『雨月物語』でさえ、会社の要求を受け入れて、納得する映画では無かったと、自分に厳しい評価を下すのも溝口だったが、下積みの女性を描くのが上手な監督と評価され、女性への優しい視線を忘れなかった。養女に出され、芸者となった姉の労苦に身近で接していた事や、付き合っていた女性に刃物で刺されたり、男のいる女と結婚しようとし、その愛妻が精神を病み、入院させざるを得なかった経験が、多彩な視線を紡ぎ出した。三船敏郎も出演した『西鶴一代女』では、田中絹代が演じる封建時代の虚しさに翻弄される女性を描き、『雨月物語』、『山椒太夫』、『近松物語』では、女性の愛の奥深さや、怖さ、素晴らしさを多面的に描き切った。新藤は、先の著書で、「溝口は八十五本の映画を作っているが、たったひとり女性の女を描いただけである」と記しているが、たった一人の女の中に、多様な女を描いたのも、溝口だった。

恭子の日記 ⑭

北風と太陽の役目



子育ての修行はとて大変。
子供達は、転んだり、へこたれたり、道を間違えそうにもなったり。
親は子供に、「失敗を恐れず、歩かせる。」
「認めてやる。」
「見守り、導き、自信をつけて世に送り出す。」
「。」。
たまには北風の勢いを受けて。
たまには太陽に癒されて。
北風も太陽も自分の使命を自覚して、「未来を作る子供達」を育てなければいけない。

昔、地方の小さな小学校の先生をした時に、私は素晴らしい校長先生にお仕えした。

頭の良いシスターで、慈愛に満ち、決して怒らず、全てに愛情を持って淡々と問題を片付ける方だった。

当時の学校には、熱意に溢れた若い先生が多く、体当たり教育の彼等、彼女等は生徒に人気があったが、決して体制派とも言えず、役職の方々とはよく意見がぶつかることも多々あった。

そんな中、未だ大学を出たての未熟者の私は、しっかりとした意見もなく、宙ぶらりんの頼りない存在だった。

幼稚園から上がったばかりの一年生を受け持ちながら、教えるというより、一緒に学びながら、よちよち歩きの先生だった。

当然、職員会議では甘い、しっかりしろ、と突っ込まれる、傷つく、落ち込む、歩きながら鼻血が出る、仕事がないし残業も多くなる。

一通りの洗礼は受けた。

子供ならずとも、すっかり自信をなくし、弱気になり、登校拒否を起こしそうになったとき、ふと、校長先生が私の横に座りわざわざ有名な「北風と太陽」の話をしてくださった。

北風はどんなに強く吹き付けても、ついに旅人のコートを脱がせられなかった。太陽はあつという間にコートを脱がせたのよ、あなたは太陽。あなたという太陽の暖かさは誰にでも真似ができるものではないわ、と。
短い話だったけれど、今でも強烈に私の心に残り、辛辣な批判やご注意を受けた時でさえ、「私は太陽、私は北風の役を受けてはいない」と、自分に言い続けた。

子供達の失敗も傷ついた経験をしたからこそ、理解してあげることができた。
怒りを相手にぶつけるより、相手を受け入れ、怒ら

ず、理解する方がうんと厳しいが、幸せなことに、見習える校長先生がそばにいらした。校長先生はやがて日本の管区長様になり、ローマ法王を補佐する4人のシスターにも選ばれた。

私は天の計らいの道を全て受け入れることが、未だやり遂げられず、失敗を繰り返して、反省をし、修行の道を歩いている。私のゴールは遙か遠い。

だけどもあれから約40年経った今でも同窓会を開いて呼んでくれる。

来月も集まりがあるが、未の子の出産日と重なり、行けるか怪しい。

それでも子供たちは(もう、中年になってはいるが)、皆気持ち合わせ、新しい私の孫の命のために祈りをささげてくれるらしい。

太陽の役目は孫の命にもつながるのかと感謝しながら、また、与えられた太陽の役目を全うすべく、ゴールを目指して歩いて行く。

(画柳会代表) 中田恭子

出来た

東京都江東区 藤村 清彦

親から貰った私の盛岡の家には、2階に上がってすぐの廊下に沿って広い物干場がある。

夜空が間近く見えて干し終わった後も長居することがあり、句が生まれることもある。以下は帰京後11月の某月例会にて。

会員20人60句の講師手書きのプリントを前に点盛りが進むが、各人6点持っているのに私の句には一向に入らない。最後に講師も点を投じる段になりようやく唯一の点が入った。

「夜干して暫くあたり天の川」

最後に総評があつてすべての作者が明かされ、秀句の発表があり、特選3句に先んじてこれが「今日の一句」に選ばれた。

ここでよせばよいのに私が結果として余計なことを言った。「先生、ヨルホシテでなくヨボシシテと投句したはずですが……」。先生は「うむうむ」と座の衆に意見を言わせる。「この句で天の川の季

語は動かないから夜干しでは季重なりになる」と大先輩の発言あり。「作者は季重なりでは確信的な使い手だ」の擁護発言？も出るうち時間切れで終わった。

帰宅後に原簿をチェックしてみた。自分でも季語を天の川としていた。「天の川」はあまりにも大きな主季語で、夏の季語「夜濯ぎ」から派生した「ヨボシ」は、季重なり感はもとより季違いを防ぐためにも「ヨルホシテ」が妥当という結論に達し、先生の深慮をここで理解した。冷や汗が出る思いだ。

まだある。天の川だから「夜」もいはずもがなだった。投句前の推敲が全く足りない。「物干してしばらくあたり天の川」

ここに至って、出来た。



銀シャリ同盟の誓い

戦時、人間は全て「モノ」だった。「贅沢は敵」「欲しがりません勝つまでは」と並んだ「産めよ増やせよ」の標語は、まさに戦死者300万人の穴埋めロボットの増産だった。その時、「人生50年」の映画が受けた▼戦後1980年代の高成長期には、「人生80年」と、高齢者は経済発展の戦士として持ち上げられ、祝い金も出た。平和と豊かさとは年齢と比例するのかなと思つた。それが今、「人生百年」の少子高齢化社会を

編集後記

今号は初めて寄稿していた方は三人。きしくも狩谷求元駿河台大学教授（東京銀行を経て）は自身が理事を勤めるパナマ国の紹介を。また、ジャーナリストの篤信彦氏（毎日新聞記者から慶應義塾大学・グローバルナビフロントBS-TBSなどに出演）は自身が友好協会の会長を勤めるウズベキスタンを書いていただいた。お二人はど

迎え、高齢者へ祝い金どころか介護保険料も値上げとなつた。どうも高齢者は扶養（不要）となつたようで、豊かさとは年齢の関係は、「時代変われば法則も変わる」のかと思つてしまう▼世はIT時代。爆弾を抱えた無人機が飛んで爆撃する時代となつた。親は子を、子は親を殺すという人間ロボット時代となつたようだ。さらに政治家や官僚は節操も誇りも失い、企業戦士のサラリーマンたちは保身汲々のロボット人間となりさがつたようである▼「むかし軍国少年、いま銀シャリ仙

んな縁でその国と関係を持たれたのか？私はロシア大使館のパーティに出た折に日露協会会長の鳩山邦夫氏が会長として挨拶された。祖父の鳩山一郎氏が国交回復された縁だろう。南北・米朝首脳会談から日朝国交回復に向かうか？さすれば安部晋三氏が日朝協会の会長に、いや、彼は受けないだろうな。もう一人の足立区の竹花氏から、「情勢が非常に急激な変化をみせております。本来ならば全文を書き換えるべき

人」といわれる村嶋孟さんに注目する。村嶋さんは戦後50年間、飢えた人々に甘い銀シャリを食べさせたいと、堺に「銀シャリ屋げこ亭」を出し、人々を喜ばせ、国内外で大活躍するランナーだ。一方、氏は今や、軍国少年転じて、社会の「批判少年」である。そこで同時代を生きた、銀シャリを「食べたい」の小生と「つくりたい」の村嶋さんは共にア・ウンの呼吸で「人間ルネサンス」を掲げ、「百歳まで生きて、この国を見届け隊」の戦友になった。銀シャリ同盟の絆は固い。

なのでしようが、基調となる論旨自体は書き換える必要を認めません」との連絡を受けました。無言館のロザリアンさん、人にとつての幸せとはの大山さん、北風と太陽の恭子さん、憎しみより共感の増山さん、4人の女性は自分というものをもち、生き方を真摯に求めておられる。いずれも含蓄のある深い作品です。読者はぜひ味わって読んでいただきたい。各々の思いと個性があらわれ出ている感があります。

私には夢があります。世界中に9つのピースアートメデアセンタ―を立ち上げることです。交互に交流試合、観光・文化交流を促進し、気が付いたら武器や原発などが

この壮大な夢にむかって20年前から、コツコツ努力を続けてきました。例えば、2004年には戦場のイラクの戦場でアート交流をしました。また、インドのストリー



台湾の地震支援のために台湾台北端月記念館でライブイベントで仕上げた作品。地震があった花蓮の発展を願って描いた(前に立つのは筆者)

命を壊す・殺す産業よりもずーっと平和な地域産業が大きな渦と笑顔とクリンな経済を作り出してしまうのです。

トチルドレンの子供たちと2週間かけて平和の絵を描きました。人って、宗教や性別や文化が違って、素敵な仲間

憎しみより共感の文化発信を

東京都日野市 増山 麗奈

とお茶を飲んでゆったり暮らしたい感覚があるなどということもわかりました。最初から**戦争を求めている人なんて世界中のどこにもいないのよ。**

人々が憎しみであったり、独裁国家で洗脳されたわけのわからない国や地域のイメージはテレビなどのメディアで拡散されます。なら、憎しみを広げられるより先に先に、人々が共感しあえる文化や観光の情報を発信してお互いが大好きになっちゃえばいいじゃないか!

42年続く「月刊タイムス」の編集委員として、雑誌での発信を続け、原爆の被害を現代につたえる「サダコの鶴」地球をつなぐ、原爆の核の片づけかたを見つめるドキュメンタリー映画「ママの約束」原発ゼロで見つけた本当の豊かさ」など映画を5作品作りました。今年になり毎週木曜日東京の多摩近辺で聞けるFM、多摩レイクサイドFMでレギュラー放送スタートし、7月からはMX地上波での新番組をスタートします。2018年は、夢を結晶します
今年やるしかない!と考える

ている理由の一つは、戦争の記憶を伝える戦争体験者の方がご高齢となつていいることがあります。ICANの核兵器禁止条約についての活動がノーベル平和賞を受賞したことも、時代の流れを表しています。地球環境的にも、異常気象が頻発して、産業構造自体を変えなければならぬ局面に直面しています。今これから経済的にも勢いを増している国々に、地球にやさしいテクノロジーの在り方、精神的な豊かさを伝えるのは、広島・長崎・福島・水俣を体験した日本のわたしたちにしかできない仕事ではないでしょうか。

え、なんで地球に9個なのかって?一大陸にひとつ、そんなセンターがあれば、ちょっといいかなというのと、「憲法9条の9」という概念でごろがいいなあーと思ったからです。ちょうど完全調和を指す数字だそうです。

不思議なことに、「よし!やるぞ!」と腹をくくると、ピンポイントで必要な人やお金、チャンスが巡ってきます。4月に行われたアイースデーでは、ICANの皆さん

と同じピースで10名の被爆者の方とパレードをし、原爆の残り火の横で絵画を描くことになりました。主催者の松尾さんは、若者の街渋谷に、原爆の残り火をいつでも見れるミュージアムを2020年までに作ろうと考えているそうです。「サダコの鶴」地球をつなぐ」のバリ島の王様の前で上映とアート奉納も決まりました。企画してくださった方々が口々にいうのは「何かに背中を押されている気がして」。背中を押してくれたのは、今まで恐竜のころから地球に生きてきた様々な生き物たちの思いかもしれません。

戦争や、核実験や化学物質で傷ついてきた人間や動物や植物が、「このままじゃ地球がもたないよーはやく僕たちの声に気がついて!」と。私は母親として、すべての命が健やかに生かれる社会の実現を心より願って、行動をします。ぜひ読者の皆さんも一緒に祈りと笑顔のうねりをつくって各業界全てに流れる水を清らかなものにしていきましょう!(映画監督・画家・市民運動家・ジャーナリスト)